

郊外部における新たな公共交通について 検討手法

余市町としての軸

①地域に親しまれるもの（需要にあわせたもの）

②持続可能性があるもの

③町内公共交通の維持

①地域に親しまれるもの（需要にあわせたもの）

ドア to ドアか停留所方式か、路線型か区域型か、ICT 活用かアナログか、輸送人数・頻度・行先

→路線形交通の通っていない区会「栄・登・美園・山田・梅川第1・沢町第3・豊丘」

（栄区会は路線形交通が通っているものの、そのほとんどが交通空白地帯のため対象）

の区会長等と相談をし、説明会も開きながら、アンケートにより需要調査

（結果別紙1 *通院内容等のデリケートな内容が含まれるため非公開予定です。

会議後回収予定です）

②持続可能性があるもの

持続性のある公共交通としたいため、事業者負担額がないことが前提となる。

また、運行費用としては赤字前提となるため、自治体負担額が発生するが、持続可能なものにするためには町の財政圧迫とならないものとする必要がある。

→運行費用の試算や、補助制度の調査

③町内公共交通の維持

導入に際して路線バス事業者やタクシー事業者の圧迫をせず、相乗効果を期待できるものとする。

→現状郊外部の交通を担うタクシー事業者の事業圧迫とならないよう、タクシー事業者と協働で進めることができる設計を理想とする。

広域バスやJR、余市循環線にも接続可能とし公共交通の利用者の増加を期待